

〈資料紹介〉

明治初期、宮城県の地方新聞にみる女子教育と裁縫科の展開

高野 俊

I、研究の意図と資料の分類

本報告は、これまで筆者が行なってきた「学制」期の女児小学と裁縫教育に関する歴史的実態の調査と分析および教育史的位置づけと意義を明らかにする目的で、宮城県における同様の問題に取りくんだ研究の第四報である。

宮城県の小学校における裁縫科の設置と裁縫教育の全体像を捉えるため、主に県庁学事文書や各小学校の沿革誌等に依拠して、その実態の解明と内容の分析を試み、それらの結果は十分ではあるが以下の論文や史料紹介としてまとめてきた。

① 「明治初期、小学校教育における裁縫科の設置と展開に関する一研究―宮城県下を事例として―」（『日本の教育史学』

第三十六号、一九九三年）

② 「近代初頭における女子教育の理念と実態に関する一研究―明治初期、宮城県桃生郡の裁縫科設置と展開を例として―」（『私学研修』第一三三号、一九九四年）

③ 〈史料紹介〉「明治初期、宮城県の学事関係文書にみる女子教育と裁縫科の設置」その一―その四、（『和洋女子大学紀要』第三十三集―三十六集、一九九三年―一九九六年）

これらの調査研究によって明らかになったことは、①県当局が女子の就学促進と女子教育の振興を図って、裁縫科の導入と設置を積極的に推進したこと、②裁縫教育の優れた指導者であった朴澤三代治が、「裁縫科仮教則」の制定や裁縫教員の養成に深く関与し、裁縫教育の確立と発展に大きな役割を果たした

こと、③朴澤が直接指導した仙台市部のみならず、県下郡部の小学校で広範に裁縫教育への着手と展開がなされたことである。

以上のような宮城県における裁縫教育の特徴と全体像をふまえて、今回は、明治初期に発刊された宮城県の地方新聞に掲載された女子教育および裁縫教育関係記事の抽出・分析を試み、県庁学事文書や学校沿革誌等では捉えきれない実際的な教育実態の解明を意図してみた。

調査対象とした新聞は、宮城県図書館所蔵の東北新聞(明治六年五月創刊、立花良次編輯、定価二銭五厘、明治七年十一月廿九日号(九号)より相愛社の須田平左衛門が編輯)、仙臺新聞(明治九年九月、東北新聞を改称)、仙臺日日新聞(明治十一年一月、仙臺新聞を改称)、陸羽磐岩新聞(明治十二年十二月、仙臺日日新聞を改称)、陸羽日日新聞(明治十三年七月、陸羽磐岩新聞を改称)、宮城日報(明治十二年七月六日創刊、社長は若生精一郎)である。この中から抽出された裁縫教育関係記事数は三十九件であり、中でも仙台の培根(木町通)小学校に関する記事が最も多く十件である。裁縫教育の内容で注目されるのは各小学校で施行された裁縫科試験の内容と方法、および昇級・卒業・賞与に関する記事が十九件もみられることである。

以下、資料の内容によって仙台市中と郡部の二つに大別し、管下の各小学校ごとにまとめて簡単な解説を付け、原文そのも

のを刊行年月の日付順に列挙していくことにする。その分類は次の通りである。

一、仙台市中の小学校における裁縫教育

①培根(木町通)小学校の裁縫教育

〈資料①〉裁縫授業法の伝習

〈資料②〉裁縫科試験の卒業生

〈資料③〉試験に戸長御家内が臨席

〈資料④〉裁縫科試験の内容と方法

〈資料⑤〉試験の優秀生徒へ賞与

〈資料⑥〉裁縫科昇級試験の受験者数

〈資料⑦〉裁縫科試験の内容・方法と参観人

〈資料⑧〉裁縫科臨時試験の卒業生

〈資料⑨〉定期試験の優等生へ賞与

〈資料⑩〉暑中休業中の特別授業時間

②琢玉(立町)小学校の裁縫教育

〈資料⑪〉裁縫科試験の内容と賞与

〈資料⑫〉裁縫科昇級試験の景況

〈資料⑬〉裁縫の技術優等者に賞与

③外記丁小学校の裁縫教育

〈資料⑭〉裁縫科試験の内容と方法

〈資料⑮〉外記丁・立町小学校の裁縫科試験案内

④仙台市における裁縫教員の認可・委嘱

〈資料⑯〉裁縫教員の認可に関する布達

- 〈資料⑰〉木町通小学校の裁縫科助教に委嘱
 ⑤宮城師範学校附属小学校の裁縫教育
 〈資料⑱〉裁縫科の開始
 〈資料⑲〉裁縫科教員の任命と退職
 〈資料⑳〉朴澤三代治が附属小学校を兼務
 〈資料㉑〉真柳さてふを裁縫教授に雇入
 〈資料㉒〉裁縫科教員の増給
 〈資料㉓〉裁縫科試験の優等生へ賞与
 二、県下郡部の小学校における裁縫教育
 ①第四中学区加美郡内小学校の裁縫教育
 〈資料㉔〉黒澤小学校に裁縫科設置
 〈資料㉕〉小野田小学校の裁縫教育へ尽力
 ②第三中学区桃生郡深谷地方の裁縫教育
 〈資料㉖〉鹿又・廣淵小学校に女児教育場を設置
 ③第三中学区牡鹿郡内小学校の裁縫教育
 〈資料㉗〉石巻小学校の優等裁縫生へ賞与
 〈資料㉘〉石巻門脇村の小学校で縫箔師雇入
 ④第二中学区黒川郡内小学校の裁縫教育
 〈資料㉙〉富谷小学校豫課裁縫生へ賞与
 〈資料㉚〉宮床小学校裁縫生の昇級
 〈資料㉛〉吉岡小学校の裁縫科開業式
 〈資料㉜〉糟川小学校の裁縫場新築と開業式
 〈資料㉝〉檜和田小学校裁縫生の技能
 ⑤第二中学区宮城郡内小学校の裁縫教育

明治初期、宮城県の地方新聞にみる女子教育と裁縫科の展開（高野）

- 〈資料⑳〉上谷刈小学校に裁縫科設置
 〈資料㉑〉福岡小学校の裁縫科試験
 〈資料㉒〉根白石町小学校の裁縫科教員
 ⑥第一中学区伊具郡内小学校の女児教育
 〈資料㉓〉金山小学校の増築
 〈資料㉔〉金山小学校裁縫生の熟練技能
 〈資料㉕〉丸森小学校に裁縫科設置

以上、今回は県下小学校の女子教育と裁縫科に関する記事に限って抽出・掲載したが、明治十二年（一八七九）九月に「教育令」が發布され裁縫科の設置が義務づけられる中で、女子教育についての主張や見解を掲げる新聞記事が目立つようになる。例えば「陸羽日日新聞」（明治十三年八月十六日）にみる「女子就学ノ景況」や、「宮城日報」（明治十三年七月廿五日）に掲載の「女子モ亦交際ヲ勉メザルヘカラス」などの長文記事も存在する。また、培根（木町通）小学校の関連記事で、同校の女生徒大津よしち・相原はるの二名を東京女子師範学校の幼稚部に派遣して保姆の資格を取得させ、木町通小学校附属幼稚園の保姆に委嘱した記事等もみられたが、今回は残念ながらこれら全てを割愛せざるを得ず、今後機会を改めて紹介したいと考えている。

なお、資料の分類方法は前掲の拙論、③〈史料紹介〉（その一

（その四）と同様に、大きく仙台市中と郡部に分けた上、各中学区の小学校ごとに区分してある。両資料を突き合わせてみると、ことよって各校の裁縫教育の実際をより詳細に捉えられるように配慮してある。合わせて参照していただければ幸いである。

II、資料解説

一、仙台市中の小学校における裁縫教育

○培根（木町通）小学校の裁縫教育

本校は県下最初の裁縫教育実施校であり、モデル的存在であった。女子教育の積極的な推進者であった校長、三等訓導の若生精一郎が主力となって、明治九年（一八七六）六月、独自の「裁縫科仮教則」を定め試行した。同十一年（一八七八）九月には変則裁縫科を開設して、子守りの女子や貧困家庭の女児のために裁縫・修身・育児法・養生法・珠算を無月謝で修学できる道を開いた。

教則では十歳以上の女子を対象とし、授業時間は正課後の二時間、科目を六級に分け毎級五ヶ月、試験によって昇級すると定めている。裁縫内容は第六級の運針、解き物の基本から始まり、木綿の単衣、袷、^{わたいれ}絮入の実物仕立て、二級・一級では紬物や絹帛、袴、帯等の縫い方まで段階的に習得させるように配慮している。

〈資料①〉裁縫授業法の伝習

培根小学校独自の教則は、朴澤三代治が関与した県達の「裁縫科仮教則」の指導法と差異があるとして、当時の教員、伊庭いさと補助の伊庭りやう外一名（本校生徒）を校費をもって朴澤の私塾に通わせ、授業法の伝習を受けさせている。この事実から県当局が「県教則」の徹底・統一を図っていること、また伝習の場が師範学校の女子部ではなく朴澤の私塾であることが確認できる。

〈資料②〉裁縫科試験の卒業生

裁縫教員三名が伝習を受けた直後に実施された試験は八級から（本校独自の教則では六級からである）始められ、卒業した女生徒は八級十四名、七級が十二名であった。

〈資料③〉試験に戸長御家内が臨席

定期的に行われる公開大試験には、通常学区取締、戸長、学務委員が臨席したが、十年（一八七七）十二月二十日に施行の〈資料②参照〉裁縫科試験に、第二中学区戸長・大立目克諸氏の御家内が臨席したのは稀有なことであると報じている。これは、県下で注目の同校裁縫教育に女性として興味・関心を寄せ、特別に見学したものと推測される。

〈資料④〉裁縫科試験の内容と方法

明治十一年（一八七八）十月二十一日に実施された裁縫科試

験の景況は、学務委員・学区取締の臨席、多数の参観人を得て、午前九時から午後一時二十分まで行われる。興味深いのは休息時に東京女子師範学校で用いられ始めた唱歌を唱和して緊張を和らげていることである。同校では当時、附属幼稚園を創設する準備のため訓導・矢野成文を東京女子師範の幼稚部へ派遣し（明治十一年六月）、のちに女生徒二名をも留学させて保姆の資格を取得させていることから、ここで学んできた、県下ではまだ珍しい唱歌を大勢の参列者に披露したものと思われる。

試験の内容は県の「教則」通りの実技試験で、八級（素縫、直線に袖廻）、七級（素縫、直線に単衣前縫）、六級（素縫、線入前縫、袷袖廻）、五級（素縫、補綴^{つぎもの}、裁方）と洗方、張物である。その評価方法は、設題ごとの縫い物や洗張技術に教員がそれぞれ甲乙をつけ、得点を通算して卒業判定をするというものである。縫い上がりの物を参観人にも回覧する特徴的やり方等、朴澤が指導した宮城県のカ縫教育の内容と実的な裁縫科試験の実態とを知り得る貴重な資料である。

〈資料⑤〉試験の優秀生徒へ賞与

明治十一年十一月二十日に実施された試験で、男子生徒に互して成績優秀の七級生（江刺にの、十三歳）と（土井はつ、十歳）の二名に石盤一枚が賞として与えられている。

〈資料⑥〉裁縫科昇級試験の受験者数

木町通小学校（明治十二年一月より改称）のカ縫科昇級試験の受験者は、八級生（二十二名）、七級生（十七名）、六級生（十五名）、五級生（十七名）、四級生（十六名）の計八十七名である。四級のカ綿羽織・夜具・袴まで縫える生徒がいることは、生徒の技術が向上し裁縫教育が充実・発展していることをうかがわせる。

〈資料⑦〉裁縫科試験の内容・方法と参観人

木町通小学校において明治十二年五月十日に実施された裁縫科公開大試験の概略であるが、前掲の〈資料④〉にみる内容と異なる点は、第五級の裁方（実物十分一の縮図をもつて幅二尺四寸長一丈四寸の布を有余不足なく裁つ）と、第四級の布団縫方（褥の四隅を燕に留む）、袴の褻積^{ひだ}取りが設題されていることである。

〈資料⑧〉裁縫科臨時試験の卒業生

裁縫科定期試験の約一か月後、裁縫専科生のための臨時試験が行われた。八級から一級までの全科をパスしたのは県下本吉郡の土族・田丸貞孝の妻のみで、五級卒業生は岩手県土族・佐羽内勇蔵の姉である。この資料から学齢以上、年齢を問わず、県外の志願者をも受け入れていることがわかる。同校の卒業証書を取得することは、裁縫科の教師や縫箔師匠としての自活の道に生かされたのではないかと推測される。

〈資料⑨〉定期試験の優等生へ賞与

本校の定期試験(明治十二年七月二十八日)で男子と同等に成績優秀生として賞与されたのは、下等小学第四級卒業の竹尾とめ(八年十一月)、同第六級卒業の江刺にの(十二年五月)、岩崎みよぢ(十一年七月)の三名である。

〈資料⑩〉暑中休業中の特別授業時間

若生精一郎に代って校長の任にあった白極誠一が、夏期休業中の授業時間について仙台区長に伺書を提出し許可される。小学校と幼稚園の一ヶ月以上の長期休業中に、生徒の学業や稚児の技芸が退歩する患いがあるので、昼間九十度以下の日には本科は午前六時から二、四時間、裁縫科は午前八時から一、二時間の特別授業を行なうとするものである。同校に附属幼稚園が開設されたのが十二年(一八七九)六月、県下の模範校に勤務する教員たちの教育への情熱がうかがえる資料である。

①琢玉(立町)小学校の裁縫教育

培根小学校に次いで明治九年(一八七六)八月に裁縫教育を始めたのが仙台区の琢玉(十二年一月から立町)小学校である。同校の裁縫専務助教であった朴澤三代治が定めた「裁縫科仮教則」がそのまま援用され、県の「裁縫科仮教則」として布達される。朴澤は、裁縫教育の実践者としての経験が認められ、十

年八月から仙台師範学校の教師に招聘されたため、本校には弟子の甲田みどりと大石こしほを代替させる。また朴澤は私塾での指導も併せもち、その門下生を各小学校に推薦・派遣していた事実も認められる。

〈資料⑪〉裁縫科試験の内容と賞与

〈資料⑫〉裁縫科昇級試験の景況

〈資料⑬〉裁縫の技術優等者に賞与

これらの資料は琢玉(立町)小学校の裁縫科試験に関するものであり、⑪・⑬にみるのは、わずか五十分で単物一枚を縫い上げた生徒への賞与、また各級の技術優等者に裁縫教授書等が賞として与えられていることである。

⑫は明治十二年(一八七九)七月八日に施行された立町小学校の公開裁縫大試験の景況で、広い校堂の中央に机を三列、一列に八脚、一脚に二人を座らせ、臨席の学務課役人、学区取締や各校の教師等を合わせて参観者は百余名と報じている。裁縫教員の参観が多いのは、朴澤が直接指導する同校が裁縫教育の研修の場となっていたとも推測される。この資料には、前掲した〈資料④・⑦〉培根小学校の試験内容にはなかった第三級の(絹にて頭布・股引の仕立方)が記されており注目される。

③外記丁小学校の裁縫教育

本校が裁縫科設置の申請をしたのは明治十二年（一八七九）

一月六日である。前年から定期的に校中会議が開かれ「男女教授法ヲ別ニスルノ議」も決議されて女子教則を改定する。女子は下等小学教科の第三級までは尋常小学と同じであるが、但し、算術は和算、地誌・地図等は略して修身書や儉約説を用いること、毎級ごとに口授科を置き修身・生理を口授すること、書牘は女子用文を使用すること、また裁縫科は上等小学に設置するが、下等小学でも十歳以上には教科を略して裁縫を授けると定めている。

〈資料⑭〉裁縫科試験の内容と方法

〈資料⑮〉外記丁・立町小学校の裁縫科試験案内

同校の裁縫教育開始から半年後に実施された公開大試験は、午前十時より十二時までの二時間で行われ女児三十二名が受験した。試験内容は八級（素縫、直線縫）、七級（素縫、小供帯、単物前縫）、六級（素縫、袷前縫、綿入袖縫）で、「県教則」に則った内容である。この資料で注目されるのが試験人と立会人に近隣他校の裁縫教員が当り、外記丁小学校の女教員三名が補助をする方法である。

また⑮の資料では、明治十三年（一八八〇）六月十一日に実施される裁縫科試験で、外記丁小学校は午前九時から五十七名、立町小学校では午前八時より百十二名を対象に行われることが

報じられている。

④仙台市における裁縫教員の認可・委嘱

〈資料⑯〉裁縫教員の認可に関する布達

裁縫科設置に伴う裁縫教員の確保は県当局にとって困難な問題であった。創設当初は民間から裁縫の心得のある女性を撰んで雇用したが、十一年以後は朴澤が指導した女子師範の卒業生や私塾生が採用されるようになる。教員の身分は訓導・権訓導・助教・準助教・助教補に区別されたが、裁縫専科教員は師範卒を助教（月給二円）、他に准助教（月給一元五十銭）、助教補（月給一元）として雇用された。

宮城県では明治十二年八月に従来の「小学校教則」を廃止して「小学校教則正科・略科」を制定する。両科とも「裁縫科」の設置が義務づけられたため担当教員の確保が必須となる。このような状況下において「裁縫一科ノ教員ハ給料ノ多寡ヲ不論助教或ハ雇ノ名義ヲ附シ雇入ノ儀郡区長ニ於テ認可スベシ」との布達が出された。

〈資料⑰〉木町通小学校の裁縫科助教に委嘱

本校の裁縫教育は益々盛んになり、前掲の〈資料⑥・⑦・⑧〉から推定して百余名の裁縫生が在籍していたと思われる。生徒数の増加に伴ない裁縫科助教に委嘱（十三年十二月十一日付）

されたのは、宮澤たか、伊木よし、上田たま、岩崎しげの四名である。どのような経歴であるかは不明である。

⑤宮城師範学校附属小学校の裁縫教育

〈資料⑱〉裁縫科の開始

〈資料⑲〉裁縫科教員の任命と退職

〈資料⑳〉朴澤三代治が附属小学校を兼務

〈資料㉑〉真柳さてふを裁縫教授に雇入

〈資料㉒〉裁縫科教員の増給

以上の五資料は、「教育令」発布後、制度的に「裁縫科」設置が義務化されたことによって、師範学校附属小学校でも明治十二年十一月から裁縫教育が始められる。当初の教員は琢玉小学校から転任した甲田みどりであったが、十三年十月に依願退職、代りに上谷刈小学校の助教、志賀知子が拝命される(月俸三円五十銭)。さらに師範学校女子部の教員、朴澤三代治が二円増俸されて附属小学校の兼務を申しつけられる。一か月後には朴澤の手伝い要員として、黒川郡鶯崎小学校の准助教、真柳さてふ(士族、太斎景隆の妻)が月俸二円で雇用され、同時に現職の氏家とく代は増給して三円となる。これら一連の資料は、当時の裁縫教員の異動状況と待遇を知る上で注目されるものである。

〈資料㉓〉裁縫科試験の優等生へ賞与

明治十三年七月に実施された定期試験で、正課の成績優等で賞与された女生徒は、三級前期生小山はるの・須田はる、四級前期生落合いる、五級前期生斎藤ふじま、六級前期生石井りう・西山たき・菊地よね・皆川きく・福田くま・三好のぶ・石川まさき・佐々木たきの十二名である。また裁縫科では七級生の西山とよ・菱沼いく、八級生の小山はるのをはじめ三十一名に賞与が与えられている。

以上、仙台市中の小学校における裁縫教育関係資料(新聞記事)をみてきたが、他に、知新(荒町)小学校と養賢(東二番丁)小学校においても裁縫教育が展開された事実を別史料によって確認しているが、それらについての新聞記事は見当らなかった。

二、県下郡部の小学校における裁縫教育

○第四中学区加美郡内小学校の裁縫教育

加美郡内の小学校で裁縫教育が展開されたのは黒澤小学校と中新田小学校の二校のみである。両校の裁縫科設置と郡内の女子教育振興に尽力したのは学区取締の伊藤文吾と区長の境野明寛であった。

中新田小学校についての新聞記事は見当らないが、前掲の〈史料紹介〉(その二)の史料⑱・⑲(紀要一〇九頁、一二一～一二二

二頁)に学事関係文書を掲載してあるので参照していただきたい。

〈資料②〉黒沢小学校に裁縫科設置

本校では、明治十年(一八七七)四月に「裁縫豫科」を設置し、独自に「裁縫豫科教授手續」を制定した。その内容は、塩釜小学校の「裁縫授業規則」と全く同じである。創設時に採用された、同校世話掛の士族錦戸高義の妻、ヨネ寿(二十三年八月)の努力によって女生徒が四十名になり追々進歩がみられると報じている。

〈資料③〉小野田小学校の裁縫教育へ尽力

明治十一年(一八七八)六月に北小野田駅在住の山田又兵衛が、仙台より裁縫教師を雇入れ同小学校の裁縫教育を開始する。女生徒の便宜を図って自費をもって衣物を備えるなど、女子教育に力を尽くしたと報じている。学事文書では確認できなかった同校の裁縫科設置の事実が判明する資料である。

①第三中学区桃生郡深谷地方の裁縫教育

〈資料④〉鹿又・廣渕小学校に女児教育場を設置

桃生郡は、他郡に率先して女児教育を推進し、具体的には「縫織科設立願」を上申している。実際に裁縫教育が展開されたのは、鹿又・廣渕小学校である。(詳細は、前掲の拙論「近代初期

における女子教育の理念と実態に関する一研究―明治初期、宮城県桃生郡の裁縫科設置と展開を例として―」を参照いただきたい)

本資料にも深谷地方の学事が格別に行き届き、女子教育にも力を入れて、管内の小学校に追々女児教育場を設けていく方針が示されている。

②第三中学区牡鹿郡内小学校の裁縫教育

これまでの調査では、牡鹿郡内で裁縫科を設置した小学校は認められなかったが、この新聞記事によって、石巻小学校(明治十二年七月設置)と石巻門脇村の育英学校(明治十三年十月設置)で裁縫教育が展開されていた事実を確認できる。

〈資料⑤〉石巻小学校の優等裁縫生へ賞与

本校で明治十二年七月十六日に実施した定期試験を受けた裁縫科女生徒は、第八級から第六級まで三十五名である。生徒総数が五百名になり、益々隆盛の見込みであると報じている。

〈資料⑥〉石巻門脇村の小学校で縫箔師雇入

同校では、明治十三年(一八八〇)十月、同村の鈴木大門氏の発意で縫箔師(今出政吉、六十三才)を雇入れ、裁縫教育を開始する。裁縫生は十三才から二十才までの五人で、昼夜とも伝習して技術が上達し、立派な着物を縫えるようになったと報

じている。

④第二中学区黒川郡内小学校の裁縫教育

これまでの調査で、郡内の小学校に裁縫科の設置が認められたのは、富谷小学校、鶯崎小学校、山崎小学校、糟川小学校、宮床小学校の五校であるが、今回の資料によって吉岡小学校でも明治十三年十一月に開設されたことが確認できる。

〈資料②〉富谷小学校豫科裁縫生へ賞与

本校の裁縫科設置は明治十年(一八七七)三月で、県下でも早い取りくみである。裁縫技術の優劣をみる公開大試験が定期的に行われ、同十一年(一八七八)六月二十日の辻新次文部権大書記官の巡視の際には、豫科裁縫生二十八名中、優等女生徒五人に巾着を賞として与えている。

〈資料③〉宮床小学校裁縫生の昇級

本校に伊達宗廣の母・ミツを雇い裁縫科が設置されたのは明治十一年(一八七八)十二月である。同十二年六月に昇級した裁縫生は四十余名であった。

〈資料④〉吉岡小学校の裁縫科開業式

本校では、明治十三年(一八八〇)十一月に、條川はる子を雇って裁縫科を開設する。ここには同月十九日に郡長・学務委員および校長等の祝詞をもって執行された開業式の状況が報じ

られている。

〈資料⑤〉糟川小学校の裁縫場新築と開業式

本校では明治十三年(一八七七)十月から、士族佐藤鋭吾の養母、佐藤あやを雇って裁縫教育を開始する。年々増加する女生徒のために必要な器械等を区内有志積立金で備えるなどの努力がなされている。また、当区行政官達の尽力で、二階に裁縫場を備えた一棟を新築し、同年十月二十二日に開業式を挙行、裁縫科助教の長江しん子は女生徒六十一名を率いて式場に臨む。この際、女生徒には縫糸一繰ずつが贈与された。

〈資料⑥〉檜和田小学校裁縫生の技能

同校の女生徒、おちか(農、後藤佐蔵の娘十三才)は、大人もおよばない程きわだって裁縫技術に優れ、このまま上達すれば裁縫教師になれるだろうと誉めたたえている記事である。

⑤第二中学区宮城郡内小学校の裁縫教育

宮城郡において女子教育の振興と裁縫科の設置に尽力したのは、学区取締の渡辺秀三と富田協平および区長の氏家次章等である。明治十一年(一八七八)一月の上谷刈小学校の裁縫科設置を始めとして、根白石、福岡、愛子、七北田、弘道、芋澤、山王の各小学校に相次いで開設された。

〈資料⑦〉上谷刈小学校に裁縫科設置

本校の裁縫科設置は明治十一年（一八七八）一月である。裁縫科の教師として同校訓導の姉、志賀知子（三十三歳）が任命されたが、一か月後には女生徒数が六十余名に増加したため、東とよを裁縫教員に雇用した。裁縫に必要な器械等を有志金や教員の自費によって購入したとある。

〈資料35〉福岡小学校の裁縫科試験

本校の裁縫科設置は明治十一年（一八七八）三月で、裁縫教員は士族の大浪ムラ（準助教）である。学校沿革誌によれば、当時の女生徒数は本科七名、裁縫専門生四十二名であった。この資料によれば、同十二年三月二十九日の裁縫科試験の成績優秀者は、六級生の清野竹女、早坂民女の二名である。

〈資料36〉根白石町小学校の裁縫科教師

本校の裁縫科設置は明治十一年（一八七八）三月、同校教員太田景敬の妻、水野徳を準助教に雇い開始する。この資料には太田教員一家三人の学校や地域の人々への献身ぶりが報じられている。

⑥第一中学区伊具郡内小学校の女児教育

角田宿が置かれた角田本郷を始め十二か村からなる伊具郡には、前回までの調査により金山小学校と角田小学校の二校に裁縫科が設置されたのを確認したが、今回の資料により明治十三

年、丸森小学校にも開設されたことが新たに確認された。

〈資料37〉金山小学校の増築

〈資料38〉金山小学校裁縫生の熟練技能

金山本郷では、明治十三年（一八八〇）五月、小学校を建築・増築して開校式を挙行する。同年十月頃の生徒出席者は二百名程であり、うち裁縫生徒は四十余名である。訓導の高野彪夫婦の懇切な教授により裁縫技術が熟練してきた様子が報じられている。

〈資料39〉丸森小学校に裁縫科設置

本校において明治十三年（一八八〇）十月頃の日々通学生徒数は三百余名、うち裁縫科の生徒は九十余名である。当然、複数の専科教員が在勤したと思われるが不明である。

以上、三十九件の記事について、これまで確認されている点を加味しながら簡単な解説を試みた。この調査・研究で新たに解明されたことの第一は、公開裁縫大試験における各級ごとの設題内容と評価法、試験人・立合人・補助者としての裁縫教員の分担と協力、試験会場の設定や臨席者・参観人の状況等、宮城県独自の特徴的実態が捉えられたことである。第二には、各校の受験者・昇級者・卒業生の人数から裁縫教育の発展的展開が推測できたこと、第三に、裁縫教員の任命・委嘱・転任・退

職等の異動状況をみることによつて、改めて朴澤三代治の指導と関与の甚大さを再認識することができたことである。

III、資料(新聞記事)

一、仙台市中の小学校における裁縫教育

○培根(木町通)小学校の裁縫教育

〈資料①〉裁縫授業法の伝習

○培根小學校にては昨年来裁縫科を設け居られしか其授業の方が仙臺師範學校の教授方とハ差ひかあるとて該教員方が相議され今度校費を以て該科教員及手傳二名を仙臺師範學校教師(裁縫科)朴澤 己代治先生の私塾へ通學せしめて其授業法の傳習を受け又黒川郡山崎小學校にても裁縫科を設けられ教則を一致するやうにとて該教員をはるゝと廳下まで登ほせこれも同氏へ稽古に遣られ居る由如何にも五尤

〔仙臺新聞〕明治十年十二月十四日

〈資料②〉裁縫科試験の卒業生

○廳下培根小學校にてハ過る廿日本科五級の試験ありしに最上優等なりとて石盤一枚の賞賜を得し者一名又裁縫の試験に八級卒業八十四名七級八十二名ありたるよし

〔仙臺新聞〕明治十年十二月廿四日

〈資料③〉試験に戸長御家内が臨席

○此頃培根小學校の試験に該區戸長大立目克諸さんの五家内か五臨席なりしは實に廳下にては稀有の事なりき五家内さへ五臨席有しを見れば今迄とは違ひ村吏三方もかならず各校の試験にハ陸續五臨席有太郎と其邊での齒無

〔仙臺新聞〕明治十年十二月廿四日

〈資料④〉裁縫科試験の内容と方法

○去る廿一日培根小學校にて裁縫科の試験があると云ふ事を揭せましたが同日探報者が參觀に出て書いて來た景況を掲せます試験のはしまりしは九時頃にして先づ八級の試験ハ素縫、直線に袖廻、等て引き續ぎ七級の試験ハ素縫、直線、單衣前縫(大首ヨリ襟下合襟迄ヲ抜キ縫シタル者下全)等の設題にて夫々令を下し縫終ることに教員が甲乙をつけ臨席の官員方へ差出しそれより參觀人へも廻して見せられたり右兩級畢ればはや十一時三十分に至りたれば總生徒へ休息を與へられたるが生徒ハ此休息時間に百鳥、秋ノ日影、寒夜、家鳩など、云ふ唱歌を唱へて鬱屈を散したり扱此唱和ハ今春以來東京女子師範學校にて用ひらるる者の由にて其聲和らぎ其調淡く參觀人の我らまでも一時欠伸を忘れたり間もなく六級の素縫、線入前縫、袷袖廻の試験があり又五級の素縫、補綴、裁方、等の試験が畢り一先づ其席

を引かせそれより洗方（廻廊へ豫め桶及机等を人数だけ取揃置きたり）の席へ就かせ教師が令を下すと一同手襟をかけ齊しく白地の洗ひ物を取りて桶に入れ揉み洗ひをなし机上に載せ石礫を抹しササヲをかけ更に清水に濯ぎ張綱に挟んで之を乾しそれより張物が畢つて甲乙をつけ毎生徒の得点を通算し卒業證書を與へられ、式全く畢りたるハ午後一時二十分なり尤も第五課より高橋君其外學區取締富田君臨校せられたり

〔仙臺日日新聞〕明治十一年十月廿八日

〈資料⑤〉試験の優秀生徒へ賞与

○培根小學校にて去廿日試験の節賞譽を受けた人々ハ勸善訓蒙一部上等八級赤間正（十四才）石盤一枚下等六級太田守人（十一才）同下等七級江刺にの（十二才）同伊藤兵吉（九才）同土井はつ（十才）同下等八級南静三郎（十一才）の六人でありました常々の五勉強が見えます

〔仙臺日日新聞〕明治十一年十一月廿九日

〈資料⑥〉裁縫科昇級試験の受験者数

○木町通小學校にてハ明日午前八時より裁縫科第八級生（十二名）七級生（十七名）六級生（十五名）五級生（十七名）四級生（十六名）の昇級試験を行ハれ衆庶の參觀を許さるるよし

明治初期、宮城県の地方新聞にみる女子教育と裁縫科の展開（高野）

し

〔仙臺日日新聞〕明治十二年五月九日

〈資料⑦〉裁縫科試験の内容・方法と參觀人

○去る十日木町通小學校（培根小學校）に於て裁縫科の試験がありし事は既に先日新聞に掲せましたが今又其試験の概略を報せられましたから爰に載せまず先づ第八級は素縫、直線、袖廻第七級ハ素縫、直線、單衣前縫第六級ハ素縫、直線、綿入前縫、拾袖廻第五級は素縫、補綴、裁方（幅二尺四寸長一丈四寸の有切を有余不足なく衣服に裁つべしの問題にて之れを實物十分一の縮圖に野引す）洗方（西洋洗法のサラ板（幅一尺二寸長二尺五六寸の厚板へ畝を立たる者へ載せて揉み洗ひ机上にあけ石礫を塗り柔なるササヲをかけ濯ぎ乾す）及び張物、第四級は布團縫方（褥の四隅を燕に留む）袴の褻積取等にてありましたが學務課よりは首藤五等屬田代八等屬も臨校せられ參觀人ハ雲の如くてありましたと結構な事で五坐る

〔仙臺日日新聞〕明治十二年五月十七日

〈資料⑧〉裁縫科臨時試験の卒業生

○去る十八日木町通小學校裁縫科にて臨時試験を行はれしに其節全科を卒業されし人ハ只一人にて即ち當縣士族本吉郡大島村

の田丸貞孝氏が妻サイ子なりまた五級を卒業されし人も一人にて是ハ岩手縣土族佐羽内勇藏氏が姉ナホ子なりしど又本校生徒の人員は現今七百二十名にして去一月より入校高は貳百五十名にて退校の人員ハ六十名なり去れは半ケ年間増員百九十名に及ふと云ふ随分盛んなる事であります嘸教員方はお骨が折れましよう

〔仙臺日日新聞〕明治十二年六月廿四日

〈資料⑨〉定期試験の優等生へ賞与

○去る廿七日廿八日の兩日に施行せられたる木町通小學校の定期試験は惣員八十八名にて上等小學第一級を卒業せし者七名内優等にて賞品を得たるは熱海三郎(十四年十月)上等小學第七級を卒業せし者十五名内賞與品を得たるは木田伊之助(十二年六月)下等小學第四級卒業の者十六名内賞品を得たるは梅森精一郎(十二年七月)三浦大三郎(十二年十一月)竹尾とめ(八年十一月)下等小學第六級卒業の者三十名内賞品を得たるは江刺にの(十二年五月)龍野寅之助(十一年十月)岩崎みよぢ(十一年七月)下等小學第七級卒業の者二十名内賞品を得たるハ大瀧庄治(十年七月)及川茂三郎(十年九月)増田萬五郎(十一年七月)の十一名であります

〔仙臺日日新聞〕明治十二年七月一日

〈資料⑩〉暑中休業中の特別授業時間

○木町通小學校四等訓導白極誠一氏より左之通り伺はれしどころ伺之通りと指令されました

小學校暑中ノ休業ハ七月廿一日ヨリ八月廿日マテノ成規當校附属幼稚園ノ休暇ハ七月十六日ヨリ八月三十一日マテノ伺濟然ル二期ク三十日乃至四十五日間ノ貴重ナル光陰ヲ曠シク亘ル時ハ生徒ノ學業稚兒ノ藝術兩分カ退歩ノ患ナシトセズ雖然赫々タル炎熱ヲ侵シテ勉強ヲ爲サシムルコト亦健康ノ妨ケナキヲ保チ難クニツノ者ノ間其宜シキヲ得ルノ良法モ有之間敷哉ト去ル七日臨時會ヲ開キ篤ト商議致候處其患害畢竟晝間九十度以上ノ暑熱ヲ侵スニ在リ若シ其時間ヲ□メ且之レヲ縮メテ日ノ且暑威ノ未タ九十度ナラザルニ及ヒ本科ハ午前六時ヨリ當日暑サノ都合ニ應ジテ四時間ヨリ多カラス二時間ヨリ少ナカラザル時間ト定メ裁縫ハ同八時ヨリ一時間或ハ二時間幼稚園ハ同七時ヨリ二時間トナシ各時間十分前總教員保姆及ヒ生徒稚兒不殘登校昇園以テ授業且保育ノ方法ヲ施行セハ縱令僅々タル時間ト雖ドモ聊カ以テ退歩ノ患ヲ支フベク亦敢テ健康ノ妨ケテモ爲サズ尤モ可然事ト目今在勤ノ教員等協同決議致候乍去成規外ノ義ニ付御指揮ノ上施行致度此段相伺候也

木町通小學校四等訓導

白 極 誠 一

明治十二年七月十日

僊台区長 松倉恂殿

〔仙臺日日新聞〕明治十二年七月十六日

①琢玉（立町）小学校の裁縫教育

〈資料①〉裁縫科試験の内容と賞与

○又十八日には當縣令公臨席立町琢玉小学校にて女生徒裁縫科の試験があり其科目は襦上ケ、針運ヒ、袖廻シのみ科にて中にも纔に五十分時間にして單物一枚を製したる手際は一入目覺しく令公よりも夫々五賞與ありたり

〔仙臺新聞〕明治十年七月廿三日

〈資料②〉裁縫科昇級試験の景況

○八日立町小学校にて裁縫科の昇級試験を施行されたり今其景況を記せば午前七時より試験に取掛り試験場を校堂の中央に設け机を三行に列し一行に八脚宛を連ね一脚に二人宛を整列せしめ第八級より試験せられたり其中第五級には洗張等を實地に試験され又第三級には絹にて頭巾股引の仕立方等を試験せられたり學務課より八田中十等屬區役所よりは學區取締臨席せられ又參觀人は各校の教員方〔裁縫教員方多い様に見うけたり〕と其外の男女を合せて百余名の多きに至れるを以て流石

明治初期、宮城県の地方新聞にみる女子教育と裁縫科の展開（高野）

に廣き試験場に錐を立ることも出來ざる位ゐでありたりといふ

〔仙臺日日新聞〕明治十二年七月十一日

〈資料③〉裁縫の技術優等者に賞与

○立町小学校の裁縫課の試験をとげしに技術優等につき裁縫教授書一部つつを賞與されたる人々には永澤おとよ田中わくり中村ひさの三人でしたと

〔宮城日報〕明治十三年七月三日

③外記丁小学校の裁縫教育

〈資料④〉裁縫科試験の内容と方法

○先頃も記るせし外記丁小学校裁縫科の試験ハ一昨三日午前十時よりはじまり生徒三十一名の内第八級生（十名）は素縫及び直線縫第七級生（十六名）ハ素縫及び小供帶單物前縫第六級生（六名）素縫及び衿前縫綿入袖縫等にて十二時に全く畢りたり試験人ハ立町小学校裁縫科教員甲田みとり氏立會人ハ木町通小学校の若生するよ氏にして該校の女教員大石永野塚本の三氏が是を補助せられ參觀人は殊の外多くありました

〔仙臺日日新聞〕明治十二年六月五日

〈資料⑮〉外記丁・立町小学校の裁縫科試験案内

○来る十一日外記丁小学校にて午前九時揃を以て裁縫科生徒五十七名の試験があるよし又十四日には立町小学校にて午前八時揃を以て同科生徒百十貳名の試験ある由但し内三名は全科卒業のものなりと

〔宮城日報〕明治十三年六月八日

④仙台市における裁縫教員の認可・委嘱

〈資料⑯〉裁縫教員の認可に関する布達

○丙第八十五號

郡 區

裁縫一科ノ教員ハ給料ノ多寡ヲ不論助教或ハ雇ノ名義ヲ附シ雇入ノ儀郡區長ニ於テ認可スヘク此旨相達候事

但本年甲第百六十六號布達第八章第十六條ニヨリ毎月末取纏メ可届出候事

明治十二年十月廿九日

宮城縣令松平正直代理

宮城縣大書記官成川尚義

〔仙臺日日新聞〕明治十二年十一月四日

〈資料⑰〉木町通小学校の裁縫科助教に委嘱

○宮澤たか伊木よし上田たま岩崎しげの四名ハ去る十一日木町通小学校裁縫科助教に委嘱されました

〔陸羽日日新聞〕明治十三年十二月十四日

⑤宮城師範学校附属小学校の裁縫教育

〈資料⑱〉裁縫科の開始

○宮城縣師範学校附属小学校で裁縫科始める

〔仙臺日日新聞〕明治十二年十一月十二日

〈資料⑲〉裁縫科教員の任命と退職

○本縣士族志賀知子は宮城師範学校裁縫教員を命ぜられ月俸三圓五十錢を給與されると又同科教員甲田みどり子は願に依りて職務を解れたり

〔陸羽日日新聞〕明治十三年十月八日

〈資料⑳〉朴澤三代治が附属小学校を兼務

○宮城師範学校教員兼書器係中川父寛氏は是れまで月俸□圓の處十圓に又裁縫教員朴澤三代治氏ハ五圓の處七圓に増俸されて附属小学校裁縫教員兼務を申し付られたり (以下略)

〔陸羽日日新聞〕明治十三年十月廿八日

〈資料②〉真柳さてふを裁縫教授に雇入

○宮城師範學校教員矢吹董氏は桃生郡矢本小學校の全科卒業試験へ臨席申し付られ又本縣士族眞柳さてふ子は同校附屬小學校裁縫教授手傳（月俸二圓）に雇入れられしと

（陸羽日日新聞）明治十三年十一月廿六日

〈資料②〉裁縫科教員の増給

○去る廿四日宮城師範學校附屬小學校裁縫科教員氏家とく代は月俸三圓に増給せらる

（陸羽日日新聞）明治十三年十一月廿七日

〈資料②〉裁縫科試験の優等生へ賞与

○過日宮城師範學校附屬小學校の定期試験にて賞與になりし生徒の人名を得たれは一寸爰に第一級後期生氏家孝太郎第二級後期生入間川廣治同和田源吉郎同前期生玉虫六三郎同三級後期遊佐伊織同前期小山はるの同須田はる同四級前期磯島健藏同前期庄子春光同阿部義一郎同落合いる同武田藏治同五級前期菊地東太郎四竈孝治同齋藤ふじま同六級前期石井りう湯目弓四郎西山たき阿部彌吉菊地よね皆川きく福田くま岩井音藏遠藤恆助三好のぶ石川まさき佐々木たき淺沼太郎長谷安治又た裁縫科では七級生西山とよ菱沼いく同八級生小山はるのの三十一名にて皆

〈其優等の差に依て夫々賞與になりましたと（以下略）〉

（宮城日報）明治十三年七月廿三日

二、県下郡部の小学校における裁縫教育

○第四中学区加美郡内小学校の裁縫教育

〈資料②〉黒澤小学校に裁縫科設置

○當縣下第三大區加美郡黒澤小學校にては正課教授の間に裁縫の科を設け其教員は錦戸某の細君にて女生四十名程へ孜孜勉勵して教授せらるる故生徒も追々進歩するよし最も該校は山間の僻村なれど管内各校に先たち（廳下を除き）此舉あるは實に各教員と學事係りの吏員諸君が心掛の宜しき柄斯く行届きしものと思はれ升が他の教員さんや吏員さん方も各々其職務にハシツカリ身を容れて下さい

（仙臺新聞）明治十年七月十三日

〈資料②〉小野田小学校の裁縫教育へ尽力

○日外の新聞にも消防組取立の時に大層骨を折れし趣を掲載せし事ありしが北小野田驛五十番地の山田又兵衛どのは萬事に行き届きし人にて去る明治八年巡查屯所建築の節も一方ならぬ盡力なりしかど其れにまた學校新築の折りしも萬端世話をされし上種々の器具等を寄附したりしがまた此頃は廳より教師を

一人雇入れ専ら裁縫の事に盡力される由にて女生徒共が平生習ひの爲め縫るる衣物等は猥りに費やせる物なれハとして自費を以て備へ置くやうになし國益の爲めにハ一身の利益は顧りみぬと云ふ人ハ實に奇特千萬の人と記者も心の底むき出での事

〔仙臺日日新聞〕明治十一年六月廿五日

◎第三中学区桃生郡深谷地方の裁縫教育

〔資料②⑥〕鹿又・廣淵小学校に女兒教育場を設置

○桃生郡深谷地方は學事のお世話が格別に行届き人民も學問ハ人間必要の者なりと了解し鹿又廣淵杯へハ女兒教育場さへ追々取り立になりしかは各村競て學校を新築する勢とはなりけるが中に大窪小學校在勤一等權訓導川村某は豫て勉強家にて自ら率先して生徒を勵まし正科の餘暇にハ和漢の歴史を教授せられ殊に學齡外の者や貧家の兒をは夜學を勸め筆紙墨をも與へられ又該村々扱の奥田某は學校世話方兼務なれは共々學事に盡力せらるる故該學區内にハ不就學の生徒は纔に四五名外ないと申事誠によいお心かけ

〔仙臺新聞〕明治十年十二月五日

◎第三中学区牡鹿郡内小学校の裁縫教育

〔資料②⑦〕石巻小学校の優等裁縫生へ賞与

○牡鹿郡石巻小學校にては去る十六日より同廿日まで定期試験を施行されたり其生徒は上等七級生六名下等全科卒業生十名同二級十五名同三級二十五名同四級三〇名同五級四十三名同六級三十六名同七級五十二名同八級生九十七名裁縫科第六級五名同七級二十二名同八級八名總計三百五十六名なり其内全科卒業にて優等なる者三名各級各科に優等なる者十七名何れも賞與あり又殊勝の勉勵を以て賞與を得し教員十三名あり此の學校は新築以來教員も全備し諸事行届き郡役所並に戸長世話係等も格別學校の爲めには奮勵せらるる故人民も稍學校の緊要にして欠く可らざるを悟り入學する者日に多く月に殖え今ハ教場も狹き程にて生徒總員五百名に及ぶと云ふ又同港村會も近々開場の由なるが學校資金などは十分の原案にて議員も學校は隆盛にするの見込なりと云ふから後來此の學校ハ益々盛大に至る可れば結構至極の事なり

〔仙臺日日新聞〕明治十二年七月廿六日

〔資料②⑧〕石巻門脇村の小学校で縫箔師雇入

○牡鹿郡石ノ巻門脇村は女風の最も醜き所にて世に門脇女とさへ云ふ程なるが今度同村鈴木大門なる者の發意にて刈田郡白石本郷より東京産の今出政吉(六十三)といへる縫箔師を雇入れて教師とし同村三浦辰吉娘ふよ(十七)いち(十六)相原

徳之助娘しげ(十八) 齋藤松五郎娘さと(二十)とよ(十三)の五名は縫箔の業を傳習晝夜とも出席して勉強の效見え今日に至りては中々立派なるものを縫ひ出すよし外々の徒らッ娘も何蚊善業に心を寄たきもの

〔陸羽日日新聞〕明治十三年十月廿六日

④第二中学区黒川郡内小学校の裁縫教育

〈資料②〉富谷小学校豫課裁縫生へ賞与

○去る二十日文部權大書記官辻殿黒川郡富谷小学校御巡視の節豫課裁縫生廿八名何れも大出來にて辻殿も感心されしか中に六級生林藏長女梅津さね(十四年六月) 道介長女菅郎みつ(十四年七月) 七級生榮藏姪細川きち(十一年七月) 八郎平五女阿邊とら(十二年五月) 八級生作太郎三女内ヶ崎いわ(十二年二月)五人ハ別に勝れたるに付巾着等御もたせに相成りしとぞ實にめさましき事なりける

〔仙臺日日新聞〕明治十一年六月廿五日

〈資料③〉宮床小学校裁縫生の昇級

○黒川郡宮床村は山につめる僻村にて度々狼が出て田畑を荒すゆゑ昨年八查公が出張され狼狩をされしが當年もまた三四疋の狼が出て荒廻るので同村の若者共が申し合せ狼狩をせ

明治初期、宮城県の地方新聞にみる女子教育と裁縫科の展開(高野)

しに漸々三疋を獲たりと又同村小学校ハ中々盛んにて此程下等小學全科を卒業せし生徒十余名昇級生七十余名又裁縫生徒の昇級が四十余名有しと

〔仙臺日日新聞〕明治十二年六月十三日

〈資料④〉吉岡小学校の裁縫科開業式

○黒川郡吉岡小学校にては是まで裁縫科の設けなかりしに今度當區より條川はる子を雇入れ去る十九日開業式を執行されしが郡長立花良次氏も臨場されて祝詞を朗讀されしに學務委員吉田潤吉氏之が答詞を述べ其他校長太田氏戸長青砥氏等の祝詞ありて式終り祝宴を同驛中町の畑屋方に開かれ各々歡を尽して解散されたりと

〔陸羽日日新聞〕明治十三年十一月廿三日

〈資料⑤〉糟川小学校の裁縫場新築と開業式

○黒川郡糟川村の高橋某氏よりの報に同村の小學校は去明治七年に設立に係ると雖とも從來寺院と云ひ且つ地形の宜きを得ざる雨雪の際は生徒の出校せざる者半に過ぎ殆んど瓦解の姿を呈せしに有志者ありて之を挽回せんと欲するも該村の地位たる吉田川の下流にあり加之品井沼に接近するが故に頻年の大水害に罹り人民擧つて困難を極め種初尤も尚ほ官の救助を仰

ぐ程の始末にて容易に學校を新築するなと能はざる所なりしが一村の子弟をして無學の境に沈ましむるは實に慨歎の至りなりとて戸長高橋治平氏筆生兼學務委員高橋儀太郎組長總代赤間徳右エ門高橋兵衛勸業委員齋藤源左エ門等の四氏が百方尽力して村民と協議の上四百余圓金を募集し村の中央に設立しある十五ヶ村の會議所を百六十圓にて買取二百六十余圓にて宏大なる一棟を新築し二階を裁縫場に階下を小學教場となし去月二十一日を以て開業の式を行ひしに郡長高木氏は書記四五名を随ひ准訓導齊藤善治氏は生徒八十五名裁縫科助教長江しん子ハ女生徒六十一名を率ゐて式場に臨み各々祝詞等を朗讀され式畢りて學務委員高橋氏ハ男生徒には筆一對手拭一本を女生徒には縫糸十繰つつを贈られ夫より祝宴を開らき參觀人へは赤飯白餅等を贈りたるハ實に盛なりしと同地よりの報知を書綴りぬ

〔陸羽日日新聞〕明治十三年九月十七日

〈資料③〉 檜和田小学校裁縫生の技能

○十二二の小女子には珍ら敷はなしとて寄贈されし原稿ハ黒川郡檜和田村農後藤佐藏が娘おちか(十二)とて至つて身体も短小方なれど裁縫にかけては大人も及ばぬ達者にて一家六七人の衣類は勿論手明の時などには近所隣家の忙は敷洗張の届かぬ

ものには手傳つてやるなど此の順に上達したなら結構な裁縫教師にもなるたらうと譽ぬものはなきよし實に感心な小娘です是れと云ふも畢竟は學校のお世話が行届きし故なるべしと思はる

〔陸羽日日新聞〕明治十三年十月十八日

⑤第二中学区宮城郡内小学校の裁縫教育

〈資料④〉 上谷刈小学校に裁縫科設置

○宮城縣上谷刈小学校にては此度裁縫科を設けられて區内の女生徒を教授されしが該科の教師は廳下より招ねかれ夫れらの器械などは盡く教員志賀時照さんが自費にて購求されしとぞ

〔仙臺日日新聞〕明治十一年二月五日

〈資料⑤〉 福岡小学校の裁縫科試験

○宮城郡福岡小学校に取設けられたる裁縫所ハ中々盛大にて去廿九日に試験がありました時六。七。八級中何れも上出来なり中にも著じるしきハ六級生の清野竹女(十六年)同早坂民女の二名にてありしが斯く學校の隆盛に赴きしも全たく戸長石川多喜治氏が尽力に依れりとまた同氏の目論見にて教場一棟を新築さるると同地より來たりし人のほなし

〔仙臺日日新聞〕明治十二年四月十日

〈資料③⑥〉根白石町小学校の裁縫科教師

○宮城郡根白石町小学校教員太田景敬(五十二)同じく長男豊吉(十九)は余程以前より同町に住居して常々交際等を親密にするのみか町内の事は何くれとなく能く世話をするゆゑ皆々景敬親子を敬ひかしつく事父の如く僅かばかりのものにても出来し時は先づ先生へ上ねばならぬと七八歳の生徒共までが歸服し居るに景敬が妻のお徳(三十八)も同じく同校裁縫科の教師を頼まれ居るに是れまた能く行き届くものから町内中太田を有難かり斯る教師は二度と再度得られぬものと心得三人家内を神の如く敬ひ尊み居らるるよし流石學校教員だけありて萬事に拔目ないと見えます

〔陸羽日日新聞〕明治十三年十二月十四日

⑥第一中学区伊具郡内小学校の女児教育

〈資料③⑦〉金山小学校の増築

○伊具郡金山本郷といふは戸數僅かに三百戸に足らざる所なるが一村擧つて諸事に勉強するの美風がある地で此程も學校の設置がないことを深く憂ひ氣内協議をなし表小路といふ所へ學校を建築せし處追々就學するものが多くなったので今度は二階造りの一棟を増築し最早落成になり開校式を取り行ふ由また同所は近頃藤田組金山連などといふが盛に擊劍會を催され

明治初期、宮城県の地方新聞にみる女子教育と裁縫科の展開(高野)

見物人は毎日幾百人なるを知らず云々其地よりの報知

〔宮城日報〕明治十三年五月五日

〈資料③⑧〉金山小学校裁縫生の熟練技能

○(前略)同郡金山本郷は山間の小村なるか夫れには不似合にて頗る人心の振起結合のよろしき所にて凡て今日の事に尽力し且つ民權を伸長せんと職ら文武の道を研究するのみならず小學校生徒の如きも戸數に比すれば余程大勢にて日毎の出席殆んど二百名内裁縫生徒四十餘名にして其技藝の練熟せる未だ郡中に見ざる所なるは畢竟訓導高野彪氏夫婦の教授の親切なるによるへしとなれとも亦た人心の振ひ居る所なるを知るべし生徒は畫學並に縫物を博覽會に出品せんと製造せし物を見るに餘程細密良緻の物なるか出品の入費を恐れて遂に扣へたりとか云々とありました

〔宮城日報〕明治十三年十月一日

〈資料③⑨〉丸森小学校に裁縫科設置

○伊具郡丸森の景況なりとて寄せられしまま左に掲ぐ戸數は大凡百八十余戸にて戸長役場は本町といふにあり小學校は市街を距ること一町ばかりにありて日々通學の生徒三百余名校内に裁縫科を設け生徒九十余名あり(後略)

(「宮城日報」明治十三年十月十四日)

〈付記〉

本資料の調査にあたり、格別の便宜をはかって下さいました
宮城県図書館郷土資料室の皆様には深く感謝申し上げます。

(本学教授)